

新聞活用と「主体的」・「多角的」な考察へ向けて

指定校 2 年次 長野県岡谷東高等学校 山野井 亮秀

櫻井 大然

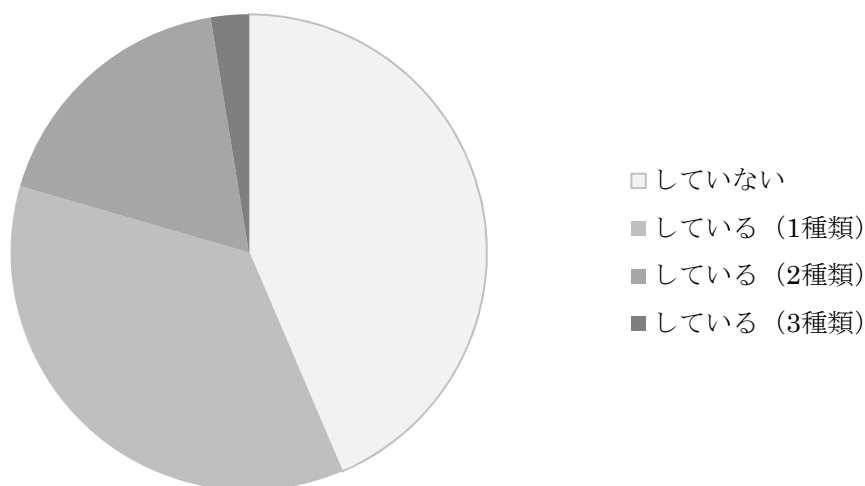
【1】本校の現状・取り組み

指定校 1 年次の課題として、生徒と新聞をいかに近づけていくかということが挙げられていた。事実、新聞に関してアンケートをとってみると、以下のような生徒と新聞の実態が見えてくる。

○新聞に関するアンケート

(3 年生「現代社会」81 人が回答、2015.1.26 アンケート実施)

・質問「あなたの家では新聞を購読していますか」



約 42% の家庭で新聞を購読しておらず、普段の生活において新聞に触れる機会が全くないという生徒がいることがわかる。

そこで指定校 2 年目の本年度は、生徒が 1 年を通じて複数の新聞に触れられる機会を設けるため、年間を通じての新聞購読を行った。NIE 推進事業での新聞購読期間である 4 ヶ月を除いた 7 ヶ月も学年費により 4 紙の新聞を購読し、一年を通じて複数紙の新聞購読を行い、生徒そして教員がより新聞を扱いやすくすることをねらった(2015 年 3 月は授業日数が少ないため、購読はしなかった)。

一方で、「読んで分らない」「記事が難しい」「どのように読めばよいかわからない」など理由に新聞に対して距離をとってしまう生徒も多数存在する。そこで生徒が気軽に新聞に接することができるようにすることを意識し、地歴・公民科、国語科そして各学年などを中心に NIE の取り組みを行ってきた。

【2】実践のねらい

新聞に対しての抵抗感が少なくない本校の生徒に対して、指定校 1 年次には以下のような NIE の実践を通して、新聞へのハードルを下げながら、生徒が新聞に親しみ、社会に関心を持つことを目指した。

○指定校 1 年次（2013 年度）の実践

- ・新聞コラムの書き写し
- ・スクラップブックを利用した記事収集
- ・記事要約
- ・見出し考察
- ・記事比較による各紙論調の特徴考察
- ・新聞記事を参照に問題を作成する「テスト作成テスト」
- ・地歴公民科・英語科のコラボレーション授業「日本と海外の新聞における論調の相違点」
- ・NIE 公開授業「高校生記者がみたアメリカ」

また 1 年次のこれらの実践の中では、それぞれ次の 3 つのねらいをもって行われた。

- ①新聞に対してのハードルを下げる
- ②社会問題に関しての「主体的視線」を育成する
- ③「多角的視野」をもってものごとを考察することを意識させる

特に②と③は常に連動した形で授業の中で意識して行われ、それにより生徒の「主体的視線」の成熟をはかることができ、また「多角的視野」を意識させるということにも成果があった。

指定校 2 年次の本年度もこの 3 点のねらいを継続しながら、加えて次のようなねらいをあらたに持って実践に当たった。

④情報や意見を発信させる

新聞記事を通した様々な学習により、生徒は「主体的視線」と「多角的視野」の重要性を意識できるようになってきている。その上で、それらを意識しながら、自らがどのように意見や情報を発信していくか、またその際に何をもとにして伝えていくのかといった点を考えさせ、得た情報を活用して情報を発信することの重要性を意識させる。

NIE 実践のテーマの一つである「新聞をつくる」という視点に関して、情報や意見の発信という点で関わりを持たせて、自身の意見や得た情報をどのように伝えるかということを生徒に学ばせることを新たなねらいとした。

また NIE 実践の取り組みを行うにあたって、次の点も本年度はより意識した。

⑤全学年において NIE 実践の取り組みを行う

指定校 1 年次には授業担当者が受け持っていた 3 学年において中心的に NIE 実践を行ってきたが、2 年次には全学年において①～④のねらいを意識した NIE 実践を展開していく。

地歴公民科を中心として、程度は異なるが、各学年の科目において NIE 実践の取り組みを行い、全学年の生徒が新聞に触れ、記事などを通して学べる機会を設けることを積極的に実施した。

以上の①～⑤を重点として、指定校 2 年次の NIE 実践に取り組んだ。

【3】NIE 実践の詳細と研究の概要

(1) 新聞の提供状況

1 年間を通じて購読した新聞は特別教室の設置コーナーに置き、生徒が自由に閲覧でき、また授業時にも簡単に利用できるようにした。各紙を月ごとにまとめ、生徒が利用する際にも日時が意識できるように配置した。

(2) NIE 実践の具体例

以下に本年度本校で行われた具体的な NIE の実践例をいくつか紹介していく。

(()) 内は実施学年)

・テスト作成テスト (新聞記事を参照した問題作成) … (3 年)

昨年に引き続き、生徒の新聞へのハードルを下げることを目的として行った。

わかりやすい解説が掲載された記事を配布し、生徒はそれを参考に問題を数問作る問題作成が完了後に回収して、ランダムに再配布して他の生徒が作成した問題を解く。解答後、問題作成者に返却し、採点してもらう。抵抗感をなくすだけでなく、生徒同士のコミュニケーションをはかることもできた。

・新聞記事の読み方… (3 年、1 年)

新聞へのハードルを下げるだけでなく、新聞を活用する上で不可欠となる新聞の読み方や語句の意味の理解など、基本的となる部分を時事問題 (3 年生選択授業) の授業などで実施し、生徒が新聞を活用するための土台作りを行った。

・新聞コラムの書き写し… (3 年、2 年、1 年)

現代社会・地理 A・国語表現の授業や LHR、総合の時間で取り組んだ。特に 1 学年では LHR・総合学習の年間計画に盛り込み、進路学習や小論文指導と連携させながら実施した。時事問題を考えるきっかけにもなり、和紙の世界遺産登録や長野県神城断層地震に関してのコラムでは生徒が関心をもって取り組んでいた。

・新聞記事スクラップ… (3 年、2 年、1 年)

昨年度に引き続き、スクラップブックを用いて長期休業課題や授業内で実施してきた。ここでも入り口のハードルを下げることを意識し段階をおった記事スクラップを行った。

・信濃毎日新聞高校学習シートの活用 (3 年、2 年、1 年)

本年度より配信が始まった学習シートを授業等に大いに活用した。地歴・公民科の授業を中心として、授業内容と関連した学習シートを生徒に取り組ませ、導入やまとめに利用した。一つの記事をもとに作成されているので、生徒も単に新聞を読むより集中して取り組むことができ、問題を通して生徒に授業内容と社会的事象のつながりを意識させることにもつながるものであった。また教科向けに構成されているので、各教科の内容の学習シートを印刷し、教科の教員に配布し利用を促した。また配信されてきた学習シートを学校内でどの教員も自由に利用できるようデータを整理した。

・まわしよみ新聞（1年）

第8回長野県NIE研究会で行われた、むつさとし氏の「まわしよみ新聞」の講演とワークショップをもとに、1年生の地理Aの2講座で実施した。4人1グループで複数の新聞を個々に読みまわしながら、気になった記事を切り抜き、グループ内でプレゼンテーションをし、その記事をもとに新聞を再構成するという内容であるが、切り抜く記事は何でも良いということから、生徒も気軽に取り組むことができ、様々な記事が取り上げられていた。グループ内のプレゼンテーションでも盛り上がりを見せ、ランダムなグループ分けであったため、普段交流しない生徒同士のコミュニケーションをはかることにも繋がっていた。作成した「まわしよみ新聞」を全体で発表する時間がとれなかったため、昇降口に掲示した。これにより実施した2講座の生徒だけでなく全校の生徒の目に触れる形となり、足を止めてじっくり眺める生徒もおり、他の講座の生徒からもやってみたいという声が聞かれた。この実践も生徒の新聞に対するハードルを下げる役割があり、また生徒の交流のきっかけにも繋がることから、次年度以降は年度当初に授業内で導入していくことを検討している。



気になった新聞記事を切り抜く



グループ内でプレゼンテーション



切り抜いた記事で新聞作り



廊下に掲示した「まわしよみ新聞」



(3) NIE 公開授業「新聞記事をもとにしたプレゼンテーション」

指定校2年次における取り組みの総括となるものが、3学年の現代社会の授業において『課題の追求』というテーマのもとに行った「新聞記事をもとにしたプレゼンテーション」である。現代社会の授業においては【2】実践のねらいで述べた②「主体的視線」、③「多角的視野」の重要性を生徒に意識させることを特に重点としていた。そこに④「情報や意見を発信する」というねらいも加えて行った実践である。

1 対象：3学年「現代社会」（全4講座で実施）、授業者：山野井亮秀

2 単元名：「課題の追求」

3 単元の目標

①社会的な問題に対する「主体的視線」と「多角的視野」の重要性に気づかせる。そして様々な立場の苦しみを理解し、様々な角度から自分なりの解決策を考える機会を設ける。

②それぞれの進路先において、主体的・多角的に考察する姿勢を忘れないよう、意識付けをする。

③協調、協同する能力を磨く

4 単元の展開（全6時限）…各時限の内容とその際の生徒たちの様子

・1時限目：班分け、テーマ決定、テーマに関するレポート作成

班分けの際は、「くじ引き」と「希望者同士」をどちらか選択させた。ほとんどの講座が「希望者同士」を選択し、和気藹々と準備を進めた。「くじ引き」によって班分けした講座では、普段交流しない生徒とも次第に打ち解けていく様子が見られた。班分け後に、「レポート作成担当」と「新聞記事収集担当」に役割分担し、作業の効率化を図った。役割を明確にすることで、全生徒が取組に参加する状況を作ることをねらった。

テーマは、授業者が提案した10テーマの中から各グループが自由に選択した。その中には、「自由テーマ」という選択肢も入れ、「危険ドラッグ」というテーマ設定をした班もあった。テーマ決定後は、パソコン教室でテーマについての概要をレポート作成する者と、新聞記事収集を行う者に分かれ作業に取りかかった。

・2時限目：レポート作成の完成とテーマに関する新聞記事収集

準備2時間目では、「レポート作成の完成」と「新聞記事収集」に取り組んだ。レポート作成者が、概要を班員に説明し、それをもとに全班員がレポートを作成し、提出した。スマートフォンの使用を許可し、スマートフォンで記事検索する者と、新聞記事を丹念にめくる者が協同して記事収集にあたった。パソコン教室でのプリントアウトによる記事収集をする者もいた。新聞記事を切り抜く際には、新聞名と日付を書き込むことを徹底させた。またインターネットでの情報収集の際にもリソース源を確認し、情報の正確性を確認することも注意させた。

・3時限目：プレゼンテーションの台本作成

レポートや新聞記事をもとにして、プレゼンテーション（15分程度）の「流れ」と「台本」を考える。その際に「どんな出来事であったのか」「どんな被害が出たのか」「そ

の出来事の背景は何か」「現在の状況はどうであるか」「今後どうすべきであると考え
るか」など、テーマに沿ったいくつかの論点を核として台本作りを行った。

班の中でリーダーシップを発揮する者が自然と確立し、その生徒を中心に作業が
進んだ。作成の進展に苦慮する班については、テーマ内容の論点について授業者
アドバイスをし、それぞれの論点についての担当者を決めて台本作りをした。作
業中、生徒同士で教え合う姿が見られ、「教える」という授業形態が自然発生した
点が印象的であった。作業に加わらない生徒は皆無で、台本作成に手間取る生徒
に笑顔でアドバイスしたり、真剣な表情で新聞を熟読したりと、前向きに取り組
んでいた。

・4 時限目：発表用模造紙作成

模造紙にプレゼンテーションの際に必要な新聞記事や説明事項を貼り付けたり、
書き加えたりしていく。模造紙作成においても情報源を確認させ、貼り付ける新
聞記事や説明事項については、新聞名と日時あるいは URL を明示するようにし
た。印象的な写真はカラーでプリントアウトするなどの工夫が見られた。ここ
でも、理解度が高い生徒が作業を牽引し、スムーズに進んだ。多くの班が、自主
的に放課後残り、時間を計りながらリハーサルを行うなど、全体的に積極的な姿勢
が目立った。

・5 時限目：プレゼンテーション（前半）…本時

班ごとにプレゼンテーションを実施。質疑応答の時間も設け、聞き手は各班のプレゼ
ンテーションのメモをとりながら聴き、素晴らしい班を2つ選ぶ。

・6 時限目：プレゼンテーション（後半）

最終班の発表終了後に、生徒と授業担当者による投票を行い、ベストスピーカー
賞を決定し、評価に反映させる。

5 本時の展開…12月18日（木）実施

段階 (時間)	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (4分)	あいさつ、出欠確認		
展開① (12分)	発表準備 E 班発表「靖国神社問題」 質疑応答	発表者の話を聞きなが らメモ 積極的に質問する	前を向いて、大き な声でスピーチ する
展開② (12分)	発表準備 D 班発表「中国のサンゴ密漁 船」 質疑応答	発表者の話を聞きなが らメモ 積極的に質問する	前を向いて、大き な声でスピーチ する
展開③ (12分)	発表準備 B 班発表「放射能の健康被害」 質疑応答	発表者の話を聞きなが らメモ 積極的に質問する	前を向いて、大き な声でスピーチ する
まとめ (10分)	感想記入（次回授業時に提 出）		

6 プレゼンテーションを実施しての考察

生徒一人ひとりに班のなかでの役割が与えられたことにより、班での共通のテーマに対して主体的に取り組むこととなり、社会的な問題についての主体的視線をもたせることができた。また複数紙から新聞記事を収集する中で、立場が異なる意見というものに触れることができ、多角的に物事を見ていくことの重要性にも気づく事ができていた。テーマに関する事柄を「新聞で学」び、また情報源の確認や記事比較から「新聞を学ぶ」ことに繋がった。

また、今回のプレゼンテーションまでの一連の流れは、新聞作りに直結するものであり、特に新聞記事をもとに自分たちの伝えたいことを再構成するという作業は、テーマの内容をより理解することに繋がるとともに、情報の取捨選択というものを考える場面になっていた。模造紙作成という作業を通して、「新聞をつくる」ということも学ぶことができていた。

一方で生徒には、パソコンやスマートフォンを用いて情報を収集することも許可したが、意外にもインターネットを利用して自分が必要とする情報を集めることができていなかった。

プレゼンテーションでは、原稿に目が行き棒読みになってしまう生徒が多く、プレゼンテーションとして意見を表明するという点では課題も見受けられた。しかし発表した生徒たちからは、今回のプレゼンテーションを通して、多様な見方というものを感じ、今後も社会的な問題に注目していきたいという意見などが聞かれ、生徒たちが、「主体的」に取り組むことの重要性和「多角的」な視点を持つことの必要性を意識できていたと感じられた。



レポート作成と記事収集



模造紙作り



プレゼンテーションの様子



【4】研究のまとめ

本年度のNIE実践では、「新聞で学ぶ」「新聞を学ぶ」「新聞をつくる」という3視点に対して、いくつかの実践を通して、それぞれに関連する形で、また3視点全てにまたがる形で、携わることができた。特に全学年において何らかの形で新聞に触れる機会を設け、内容こそ程度の差はあるが、NIE実践を行えたことは大きな成果であった。

本校において重点的なねらいとしている「主体的視線」の育成と「多角的視野」の意識を、生徒たちに培わせるきっかけとして、新聞を用いた授業の役割は大きいものがあつた。特に授業者の側が気軽に新聞を授業の中に取り入れようと、授業者自身が気になった記事を様々な場面で紹介できていたことも、生徒たちが新聞を用いた授業を余り抵抗なく受けることができた点につながっていると思われる。

授業をきっかけとして新聞を読むようになったという生徒もあり、少しずつではあるが、授業時における新聞の利用が、生徒の日常生活における新聞への関心に繋がるようになってきている。社会的な事象に対して常に関心をもってもらうきっかけとして、また「主体的」・「多角的」な姿勢を意識づけるものとして、NIE実践の手応えというものを感ずることができた。

【5】課題

2年間研究指定校としてNIEの活動に携わってきた中で、担当者としてNIEの教育効果というものを強く認識できるようになってきた。一方で、まだその取り組みは学校全体へと広がっているわけではない。全学年での実践はできるようになってきたが、これを校内で多くの教員が携わりながら、実践していくことが次の課題となっている。研究指定校に関してはこれで終わりとなってしまいが、今後も継続的に授業内で新聞を取り扱い、さらにその内容や手法を効果的に、他の教員に情報発信していくことを常に意識しながら、NIE実践を継続して実施できるようにしていきたい。